

前沖縄防衛局長の不適切発言に抗議し、防衛大臣の責任を明確にするとともに環境影響評価書提出の断念を求める抗議決議

去る11月28日、沖縄防衛局の田中聡前局長は、報道陣との懇談会の席で、普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書の提出時期について問われたことに対し、「これから犯す前に犯しますよと言いますか」と発言した。非公式の席とはいえ、沖縄における防衛省のトップである沖縄防衛局長が、このような、人権感覚を欠いた発言をしたことは誠に許しがたいことである。

前局長の発言は、辺野古新基地建設に係る環境影響評価書の提出時期をめぐっての比喩としての発言であったが、発言そのものが女性に対する冒瀆であり、県民に大きな衝撃を与えるもので、到底許すことはできない。

今、環境影響評価書の提出を前に、「県民の理解と信頼を得る」として政府は防衛大臣をはじめとして度々閣僚が来県している。

今回の発言はまさにその最中に行なわれた。これまで県民が基地の整理・縮小を強く訴えても、全く聞く耳を持たず、一方的な「信頼」を押し付けるといった政府の対応の中で行われたことに、問題発言の本質がある。

政府は辺野古への基地建設についても今は一応理解を求めようとしているが、最後は力づくで強引に押し付けるとの本音が図らずも表れたものであり、断じて許されるものではない。

一川防衛大臣は県民の怒りを恐れ、発言の翌日直ちに沖縄防衛局長を解任した。

その一方で、前局長の発言の謝罪のため来県したはずの防衛事務次官は、一通りの謝罪の後、すぐに環境影響評価書の提出を明言した。

また、一川防衛大臣は12月1日の参議院で、1995年の米兵による少女暴行事件について「詳細は知らない」と大臣にあるまじき答弁をし、さらに翌日、県を訪れ仲井眞知事との会談で「お荷物を抱えてしまった」という発言は、何ら心からの謝罪や反省は見られない。

よって、沖縄市議会は、怒りを込めて、田中聡前沖縄防衛局長の発言に抗議し、任命責任者として自らの発言を含めた一川防衛大臣の責任を明確にするとともに併せて政府による環境影響評価書提出の断念を強く要求するものである。

平成23年12月16日

沖 縄 市 議 会

あて先

内閣総理大臣 防衛大臣 内閣官房長官 外務大臣 沖縄及び北方対策担当大臣
沖縄防衛局長